2023年度 中期経営計画

年間評価一覧
（大科目・中科目）

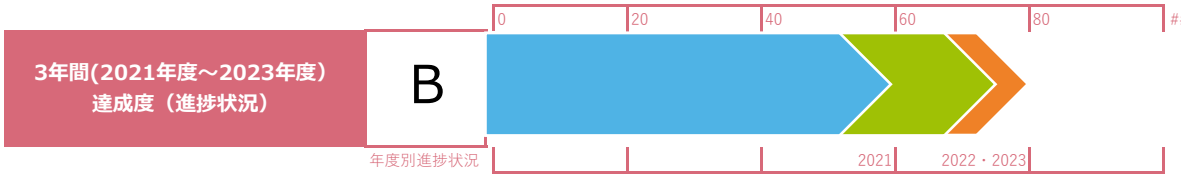
学校法人 茨城キリスト教学園

戦略 I

広報戦略と募集活動による入学者の確保

・広報および募集活動の質を向上させ、入学定員を確保する。
・学園の文化・教育・研究を伝える広報戦略を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している　[A]81%～99%達成している [B]61%～80%達成している　[C]41%～60%達成している [D]21%から40%達成している　[E]1%から20%達成している [－]0%、もしくは該当しない

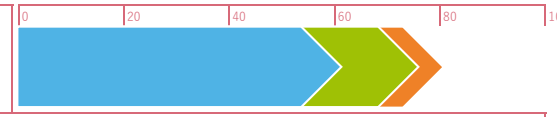


大科目：3年間の実行結果・評価説明

大学	大学HP、SNS、オープンキャンパスを活用した情報発信、および戦略的な入試分析によって入学者数は確保できている。今後、全学部・学環と連携した魅力的な広報に努める。また発信内容の深掘りに注力する。
認定こども園	本園ならではの保育内容を広報する機会を増加させた。日立市の人口減少や保育ニーズの増加を踏まえ、今後も本園の魅力を発信し適正な入園者数を確保していく。
中学校 高等学校	ホームページや中学校・塾への訪問を通して広報活動を展開し、学園の環境の良さと魅力を大いにアピールできた。
法人事務局	産官学連携事業や学生生徒園児の取組みを各種メディアを通して紹介し、更なる学園ブランド構築につなげた。
キリスト教 センター	年々その関心が高まっているキアラ館のブランド価値を十分認識し、その魅力をより積極的に発信した。2024年度はそんなキアラ館の竣工50年であり、近年での最大の好機である。

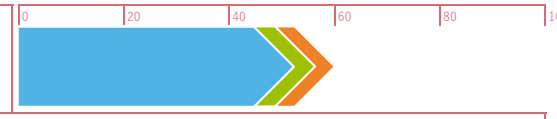
中科目：各部局マスタープラン　　2021年度から2023年度末までの3年間分実行結果・評価説明

1．学生募集に効果的な広報活動と入試制度の再構築	B



大学	大学HPの改修、オープンキャンパスでの取り組み、SNSでの情報発信により入学者数は確保できている。今後、情報発信のコンテンツの充実を図る。

2．園児の安定的確保と広報誌の強化	C

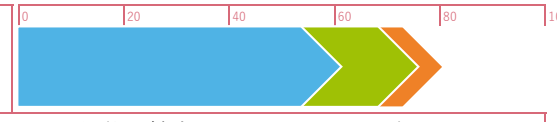


認定こども園	2023年度末時点で、せいじ・みらい園合計の園児数が利用定員に達していない。日立市人口動態を踏まえ、適正な定員数を検討し、効果的な広報をして園児の確保に努める。

3．学校の魅力の情報発信力強化	A

中学校 高等学校	ホームページや図書館ブログで地域社会への広報活動を展開し、学校見学会や入試問題説明会、学園祭で多くの人を集めることができた。

4．豊かな自然、歴史と伝統をふまえた革新的な学園ブランド構築	B



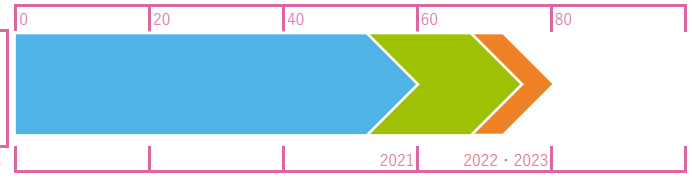
大学	魅力的なHPや動画は高く評価できる。しかし、大学の魅力がまだ十分には発信されていないと感じる。広報のテーマを本学の得意分野に絞り込み，深みのある広報を計画的に展開する必要がある。
認定こども園	大学との連携を強化してきている。総合学園の利点を生かした園のブランド構築をさらに進め、広報していく。
中学校 高等学校	総合学園としての強みを生かし、茨城キリスト教学園の環境の良さと魅力を、学校見学会やクリスマスのテレビ放映を通して大いにアピールすることができた。
法人事務局	コロナ禍前の行事再開をしつつ、オンライン手法の有用性も踏まえた行事開催を広報、また、産官学連携事業や学生生徒園児の取組みを各種メディアを通して紹介し、更なる学園ブランド構築につなげた。
キリスト教 センター	キアラ館やアンネのバラを紹介する絵ハガキ・セットや案内マニュアルは随時作成してきた。現在、キアラ館竣工50年に向けて、記念パンフレット作成のための資料収集中・最終準備中である。

戦略Ⅱ
特色ある教育・研究活動の推進

・隣人愛の精神を持ち、主体的に学び、次世代へ切り拓く人間を育成する教育を行う。
・多様性のある研究活動を推進し、地域・世界への貢献を果たす。

達成度(進捗状況)【評価基準】		
	[S]100%達成している	[A]81%～99%達成している
	[B]61%～80%達成している	[C]41%～60%達成している
	[D]21%から40%達成している	[E]1%から20%達成している
	[－]0%、もしくは該当しない	

3年間(2021年度～2023年度)達成度（進捗状況）	B

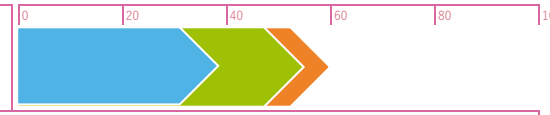


大科目：3年間の実行結果・評価説明

大学	特色ある教育・研究活動を推進する新たな営為として、内部質保証のための具体的な点検項目を全学方針として整備した。毎年度着実な点検評価を実施し、課題達成策とともに広く公表して実行し、教育・研究を推進する。
認定こども園	建学の精神に基づいて園児を大切にする保育・教育を継続し、大学や中高との連携を本園の特色として今後もアピールしていく。
中学校 高等学校	建学の精神に基づいた教育活動実践のため、教職員の研修を強化した。また、総合学園の強みを生かし、他部局との連携を図った。
法人事務局	コロナ禍前の対面研修が学内・学外ともに再開し、研鑽を積むとともに貴重な人的交流を図ることができた。
キリスト教センター	他のキリスト教系大学にはない本学チャペルの独自性と特色を充実させつつ、魅力あるチャペルづくりを心掛けた。併せて、学生や教職員の心のオアシスとしての居場所をも目指した。

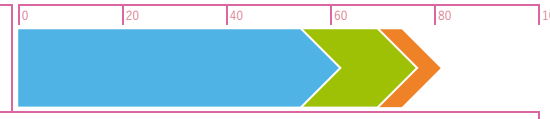
中科目：各部局マスタープラン　　2021年度から2023年度末までの3年間分実行結果・評価説明

1. 建学の理念に基づいた教育	C



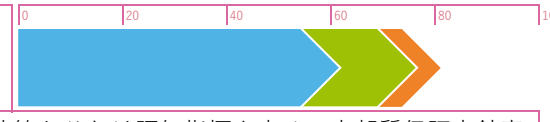
大学	学環をコアとして全学的な教養力をさらに高め、地域や国際社会への貢献力を同時に高める。そのために学園内での各部局間連携構造も、より教養力と地域・国際貢献力の向上に合致するものに重点化していく。
認定こども園	建学の理念に基づき一人一人の園児を大切にする教育・保育が保護者からも評価されているため、今後も維持・強化していく。
中学校 高等学校	従来の放送礼拝に加え、讃美礼拝の実施、生徒主体の礼拝など、様々な取組みを行い、充実した礼拝が実践できた。ボランティア活動も推進した。

2. 教育の質保証	B



大学	教育について、全学的な質保証の具体策とりわけ評価指標を定めて内部質保証方針案に盛り込んだ。2024年5月に当該方針を確定・公表し、この通りに2024年度末より評価・改善の質保証を実行する。

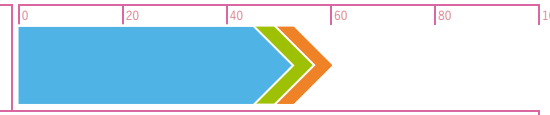
3. 学生支援体制の充実	B

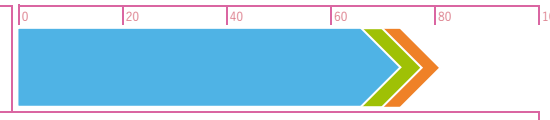


大学	学生支援について、全学的な質保証の具体策とりわけ評価指標を定めて内部質保証方針案に盛り込んだ。2024年5月に当該方針を確定・公表し、この通りに2024年度末より評価・改善の質保証を実行する。

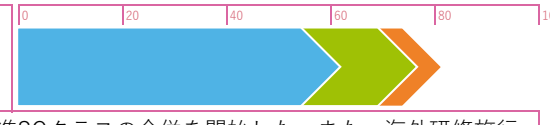
4. 教職員研修の充実	B

大学	これまでの教職員研修も一定程度の効果が認められるが、今後は全学的な質保証体制のなかでその効果性をより緻密に評価し、その評価をふまえたてFD /SDを実施する。
認定こども園	2023年度は保育教諭の研修に加え、副園長と主任の特別研修・視察の機会を設けることができた。今後も研修を充実させていく。
中学校 高等学校	教職員研修の充実のために、教職員の研修プログラムを増やした。
法人事務局	コロナ禍前の対面での研修を再開するほか、業務上必要とされる資格取得のための講習受講を計画的に進めた。

5. 多様な研究の推進	C	
大学	多様な研究の推進という意味では、後退もしていないが、大幅な前進（多様化・研究件数増加）も見られない。これまでの水準を維持しつつ、内容の多様化と量的増大をさらに測る必要がある。	

6. 大学と連携した特色ある保育の推進	B	
認定こども園	大学幼児保育専攻教員と園管理者の協議会を実施した。看護学部との連携活動を行なった。今後も大学との連携を本園の特色として推進していく。	

7. 大学生の実習受け入れ態勢の充実	A	
認定こども園	大学生の様々な実習を受け入れることができている。また、大学の担当教員と実習について協議する機会も持つことができた。	

8. 中高一貫教育の充実と発展	B	
中学校 高等学校	高校2年次より、一貫特進SAクラスと高入特進SGクラスの合併を開始した。また、海外研修旅行を再開した。	

9. 法人内中大連携、高大連携の推進	B	
中学校 高等学校	茨城キリスト教大学教員を講師に招いて、探究活動や職業ガイダンス、模擬授業ガイダンス、食育講座、いのちの教育を行った。	

10. チャペルのあるキャンパス･ライフ	B	
キリスト教 センター	学科チャペル、コンサートや音楽チャペル他の企画チャペルを充実させた。また、魅力あるチャペルを目指すべく、チャペル奨励者や前後期キリスト教講演会、クリスマス礼拝や卒業記念礼拝の講師選任も工夫した。	

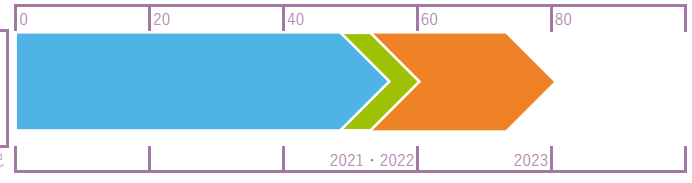
戦略Ⅲ

地域連携とグローバル化の推進

・地域に深く根ざし、国際社会に貢献する学園のブランド力を確立する。
・地域との連携活動を強化する。世界とつながり世界に学ぶ教育を深化させる。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している　[A]81%～99%達成している [B]61%～80%達成している　[C]41%～60%達成している [D]21%から40%達成している　[E]1%から20%達成している [－]0%、もしくは該当しない

3年間(2021年度～2023年度) 達成度（進捗状況）	B

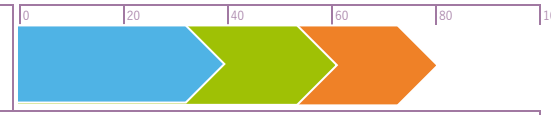


大科目：3年間の実行結果・評価説明

大学	「グローカル」な大学を目指した2023年度までの実績をふまえ、2024年度以降も本学の特色を生かした地域連携ならびにグローバル化の推進を行なっていく。
認定こども園	2023年度は地域連携活動を再開させることができた。グローバル教育活動を充実させた。保育者の国外研修を再開させることが課題である。
中学校 高等学校	コロナ禍により一時的に中断していた地域連携や国際交流を、コロナ対策を盛り込んで再構築し、再開した。
キリスト教 センター	地域社会にも貢献するべく平和教育としてアンネのバラ苗木配布を継続している。また、学園クリスマスのみならず、グローバル化の観点より、留学生によるチャペルなどを積極的にオープンにしていく。

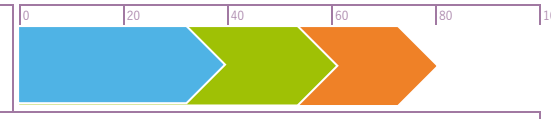
中科目：各部局マスタープラン　　2021年度から2023年度末までの3年間分実行結果・評価説明

1．地域社会貢献への積極的活動実施	B



大学	全学的に地域貢献活動として地域から要請を受けて講座開設やリカレント教育の実施およびイベントへの積極的な参加を行った。地域における大学として2024年度以降も地域社会貢献活動を積極的に実施する。
認定こども園	2023年度は、コロナ禍により途絶えていた地域社会との交流を再開することができた。近隣中高生のボランティア、職場体験受け入れも再開させた。
キリスト教センター	2023年度は、中高生による出張讃美、大学生によるキャロリングが実施でき、学園クリスマスも制限なしで再開できた。さらに、三年連続で活動がTV番組で紹介されたことも大きな励みとなった。

2．グローバル化の推進	B

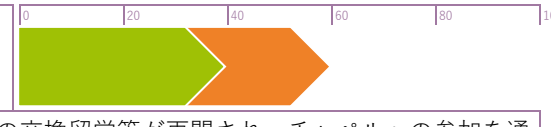


大学	安全かつ効果的な海外留学・研修を実施するための提携校との連携強化は連動し一定の結果を残したといえる。キャンパス内で実施可能なグローバルな活動については2024年度以降も検討し、実施していく。
認定こども園	グローバル教育コーディネーターおよびグローバル教育アシスタントの配置により、園児が自然に英語に親しむ環境を醸成した。
中学校高等学校	豪州短期プログラム、G.R.E.A.T.プログラム、米国短期プログラムの派遣およびSummer America Program、Autumn Australia Programの受入を再開した。

3．地域社会との連携を推進し、外部人材および資源の活用	B

中学校高等学校	探究活動や部活動を通して地域連携を強化した。

4．海外のキリスト教系学校学生との交流	C



キリスト教センター	2023年度は、海外のキリスト教系学校との交換留学等が再開され、チャペルへの参加を通して交流できたことは大変良かった。

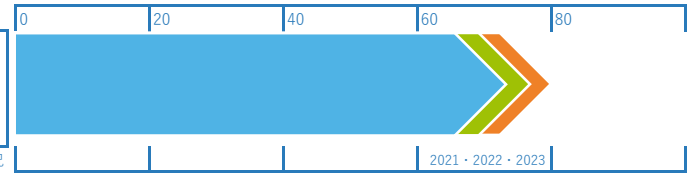
戦略Ⅳ

キャリア教育と就職支援・進学支援

・キャリア教育、就職・進学支援の向上を図り、学生・生徒の夢の実現に寄与する。
・学生・生徒の卒業後の満足度を上げる。

達成度(進捗状況)【評価基準】	[**S**]100%達成している [**A**]81%～99%達成している [**B**]61%～80%達成している [**C**]41%～60%達成している [**D**]21%から40%達成している [**E**]1%から20%達成している [**－**]0%、もしくは該当しない

3年間(2021年度～2023年度)達成度（進捗状況）	B



大科目：3年間の実行結果・評価説明

大学	キャリア教育や教員採用試験・国家試験では確実な成果が示されている。今後、より成果の充実を図るため組織の連携強化および、教育に携わる卒業生と在学生・教員とのネットワークの構築を促進する。
中学校 高等学校	進路ガイダンスや宿泊行事を通してキャリア教育を実践するなど、進路指導を強化した。

中科目：各部局マスタープラン　　2021年度から2023年度末までの3年間分実行結果・評価説明

1．進路支援に対する組織的な支援体制の強化	B	
大学	体系的キャリア教育および教育力の向上を図り、教員採用試験や国家試験では多数の合格者を輩出した。2024年度に向けて教職支援センター開所準備や資格取得講座の充実、卒業生との連携をより推進した。	

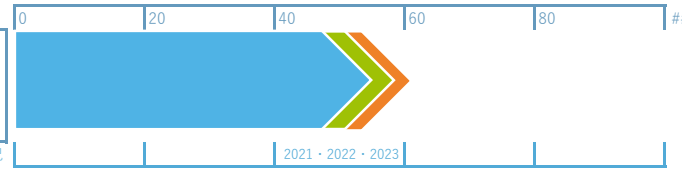
2．キャリア教育の実践と充実	B	
中学校 高等学校	外部人材の招聘や宿泊行事を通して、キャリア教育活動を実践した。	

3．学習指導と進路指導の強化	B	
中学校 高等学校	国立大学による公開講座を中高生に受講させて進路実現への意識を高めると同時に手厚い個別指導を実施した。	

・学生・生徒・園児数を継続的に確保する。
・環境変化に対応する事業と財務のバランスを図り財務基盤を強化する。

達成度(進捗状況) 【評価基準】	[S]100%達成している [B]61%～80%達成している [D]21%から40%達成している [－]0%、もしくは該当しない	[A]81%～99%達成している [C]41%～60%達成している [E]1%から20%達成している

3年間(2021年度～2023年度) 達成度（進捗状況）	C



大科目：3年間の実行結果・評価説明

大学	本来あるべき理想の教学と、その遂行を可能ならしめる持続的な財政基盤とのバランスを、内部質保証方針を遂行することで確保すること、またそのために並行して業務の効率化を図るDXを推進することが肝要である。
認定こども園	補助金や寄附金が得られていることに加え、2023年度から施設維持費他の学納金を改定した。教育・保育充実のため、今後も多様な収入源の確保が必要である。
中学校 高等学校	2024年度入学者数は2023年度の数を維持できなかったが、学納金改定を実施した。
法人事務局	収入の多様化を図るための取組みでもある寄附金募集活動では、年間目標金額を設定し、保護者や卒業生などにも呼びかけた結果、目標金額を達成することができた。
キリスト教 センター	学園が建学の理念とスクールモットー(平和と真理と、愛)を追求し、健全な学園運営をしていくにあたって、そのために必要な財政の安定化を覚えて祈り続けていく。

中科目：各部局マスタープラン　　2021年度から2023年度末までの3年間分実行結果・評価説明

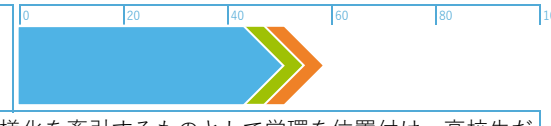
1．組織ガバナンスの強化	B

大学	学長方針に対して構成員の間に異論が多い場合も、業務に支障をきたすことなく適切に組織決定をなしうるガバナンス・ルールを擁する必要があり、2023年度の状況を振り返って再検討が必要である。

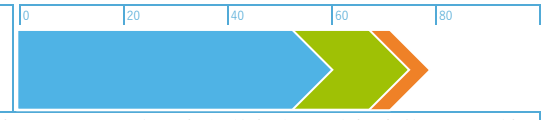
2．予算配分の適正化	C

大学	大学全体の定員充足を維持しつつ、定員割れを来した学科や学環のさらなる教育充実と広報に予算を十分重点配分することが肝要である。
認定こども園	日立市の人口動態と保育ニーズを注視しつつ、効果的な園児募集活動をすることで経営目標とする総在園児数の確保に尽力した。
中学校 高等学校	学業特待生制度の改革実施に続き、体育特待生についても人数制限を設定した。2024年度入試においては、一定の成果があった。
法人事務局	目標とする入学者数は、年々厳しくなる社会状況や人口動態の影響下にあっても、大学全体としては目標達成することができた。
キリスト教 センター	各種事業実施において引き続き、少額の予算で最大限の効果を生み出す努力をしている。今後も、学園の埋もれた遺産を発掘したい。

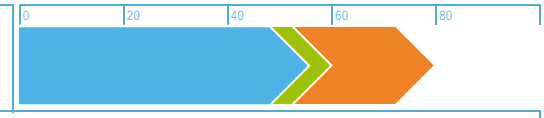
3．収入の多様化と経費節減による財政基盤強化	C



大学	多様な時代に対応する本学全学科の学びの多様化を牽引するものとして学環を位置付け、高校生だけでなく社会人の学び直しに全学的に対応することで財政基盤を強化していく。
認定こども園	2023年度より学納金を改定したが、今後も収入の多様化と経費削減の方策を検討し続けていく。
中学校 高等学校	財政基盤安定のため、2024年度から学則改定（学納金改定）を行った。
法人事務局	収入の多様化を図るための取組みでもある寄附金募集活動は、年間目標金額を達成。寄附金の有効活用も進め、次なる寄附金獲得に繋がるよう努めた。
キリスト教 センター	ペーパーレス化、節電、他部署の備品の再使用など、可能な範囲で経費節減に努めた。

4．中長期修繕計画の策定と必要資金の確保	B	

法人事務局	中長期施設修繕計画（案）の再検討を継続しつつ、大学一部組織機能の移転実施による校舎用途の見直しを含め、校舎存廃の検討を進めた。

5．安心と安全に基づく環境整備	B	

大学	DXを組織的に推進するなかで情報管理セキュリティの確保手段を同時に検討していく。その他の災害対応についても物的・人的堅牢化を進めながらDXを推進する。
認定こども園	子どもを預かる施設における安全確保が社会的課題となっている状況を踏まえ、本園としても安全面における取り組みや環境整備を強化している。
中学校 高等学校	防災避難訓練は毎年行っており、原子力災害についても事あるごとに教職員で意識啓発を心がけている。防犯カメラも増設した。
法人事務局	台風被害による校舎浸水や車両水没事故を教訓にキャンパス内危険個所の洗い出しを実施。また、大規模火災を想定した学園総合防災訓練を実施、意識啓発を行った。
キリスト教 センター	学園キャンパスに命の尊さと平和の大切さを訴える「アンネのバラ」を植えているが、さらに、増やしていく。また、苗木の配布も継続していくが、それに関わるボランティア体制も整備していく。

学校法人
茨城キリスト教学園

■茨城キリスト教大学大学院

文学研究科　英語コミュニケーション専攻
生活科学研究科　食物健康科学専攻
心理学専攻
看護学研究科　看護学専攻

■茨城キリスト教大学

文学部　文化交流学科
現代英語学科
児童教育学科（児童教育コース・幼児保育コース）
生活科学部　心理福祉学科
食物健康科学科
看護学部　看護学科
経営学部　経営学科
未来教養学環（2024年4月開設）

■茨城キリスト教学園高等学校

全日制普通科

■茨城キリスト教学園中学校

完全中高一貫６年制教育

■茨城キリスト教大学附属認定こども園

せいじ園・みらい園

第15期中期経営計画 2021年4月1日開始

Peace Truth LOVE

茨城キリスト教学園
〒319-1295 茨城県日立市大みか町6-11-1
TEL：0294-52-3215(代)
FAX：0294-52-3493
https://www.icc.ac.jp/edu/